



(糸魚川)

木簡は、平安時代から中世の自然流路の岸の遺物包含層から一点出土した。自然流路からは、大量の製塩土器や斎串・八稜鏡などの祭祀遺物が出土している。

田伏山崎遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物散布地、古墳時代後期の集落跡などからなる複合遺跡である。

- 1 所在地 新潟県糸魚川市大字田伏字山崎
- 2 調査期間 二〇〇七年(平19) 四月～九月
- 3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 佐藤友子
- 5 遺跡の種類 遺物散布地・集落跡・祭祀遺跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～古墳時代後期、平安時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

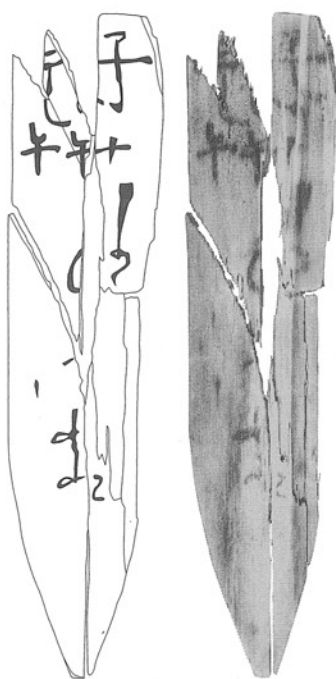
新潟・田伏山崎遺跡 たぶせやまざき

8 木簡の釈文・内容

(1) [子カ] 十 [午] [午] [午] [午] [午]

215×47×5 051

木簡の年代は出土層位から、平安時代から中世と見られる。一行目の二文字目は「午」の可能性もある。刃物で中央、左右両辺が切断されており現状で六断片に分かれる。廃棄の過程が復元できる資料である。



赤外

(佐藤友子)